

第4次柏原市総合計画
“これまで”と“これから”



平成28年3月
柏原市

目次

第4次柏原市総合計画の“これまで”と“これから”	・・・1
第1章 “これまで”～前半期(平成23～27年度)の取組～	・・・2
視点① 住みやすさ	・・・2
視点② 充足感	・・・6
視点③ 重要度と満足度	・・・9
視点④ 改善度指数	・・・12
第2章 “これから”～後半期(平成28～32年度)の取組	・・・17
政策目標1 地域のつながりの中で 誰もが健康で安心して暮らしている	・・・20
政策目標2 産業と豊かな自然が調和し、 環境にやさしい事業活動が生活行動を実践している	・・・21
政策目標3 生活の利便性が高く、 質の高い快適に暮らせるまちとなっている	・・・21
政策目標4 人権を尊重し、地域への誇りを持った 心豊かな個性と能力を発揮する人が育っている	・・・22
政策目標5 健全な行財政運営が行われ、 市民全体のまちづくりが実現している	・・・23

第4次柏原市総合計画の“これまで”と“これから”

第4次柏原市総合計画は、行政運営の指針として「市民が生きいきとしにぎわいにあふれているまち 柏原」という将来の姿を定め、市民の目線に立ち、この目標を実現するための政策や施策を体系的に示したものです。

また、計画期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間です。

●計画の期間と構成（第4次柏原市総合計画抜粋）

1) 基本構想

長期的な視野に立ち、将来どのようなまちづくりを目指すのか、その実現のための基本的な方針を示すものです。計画期間は、平成23年度を初年度とし、平成32年度を目標年度とする10年間とします。

2) 基本計画

基本構想に示された将来像を実現するため、基本構想をより具体的にし、各分野別の取組を示すものです。計画期間は、平成23年度を初年度とし、平成27年度を目標年度とした5年間の前期計画と、平成28年度を初年度とし、平成32年度を目標年度とした5年間の後期計画で構成します。なお、後期計画は、前期計画の進捗状況を検証しつつ、社会情勢の変化やこれに伴う新たな行政課題、市民意識の変化等を踏まえた上で見直します。

現在、第4次柏原市総合計画は5年目を迎えようとしています。しかし、この間に社会情勢は大きく変化しました。

人口減少問題が全国の地方自治体に新たな行政課題として立ちふさがり、これを受けて、国は地方創生や一億総活躍社会といった対策に取り組んでいます。

この人口減少問題は、柏原市が抱える行政課題の中で最も大きく、消滅可能性都市としてリポートされた本市にとっては、この課題は最優先課題です。

そこで、平成28年度から後半の5箇年においては、子育て環境の充実や安全・安心な暮らしの実現など、本市がまちづくりの核として実施している取組を引き継ぐほか、地方創生の指針となる「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をリーディングプロジェクトとして位置付け、定住移住の促進など、人口減少、少子高齢化の対策となる取組に、重点的に取り組むこととします。

第1章 “これまで” ～前半期(平成23～27年度)の取組～

第4次柏原市総合計画では、前半期の進捗状況の検証を行いながら、社会情勢の変化やこれに伴う新たな行政課題、市民意識の変化等を踏まえ、後半期(平成28～32年度)に取り組むものとしています。

そこで、本章では、平成26年度の市民意識調査の結果を用いて、住みやすさ、充足感、重要度と満足度、改善度指数の4つの視点から、“これまで”～前半期(平成23～27年度)の取組～ についての検証を行います。

視点① 住みやすさ

使用データ

平成26年度市民意識調査の最後の設問（■最後にあなた自身のことについてお尋ねいたします。）の回答と、その回答に対する「今後の重要度」の結果をクロス集計します。

回答者1	住みやすさ「 住みやすい 」	重要度	「医療体制5」	「健康づくり3」	・・・「財政運営4」
回答者3	住みやすさ「 住みやすい 」	重要度	「医療体制3」	「健康づくり4」	・・・「財政運営4」
・	・	・	・	・	・
回答者422	住みやすさ「 住みやすい 」	重要度	「医療体制4」	「健康づくり5」	・・・「財政運営3」
		平均重要度	「医療体制3」	「健康づくり4」	・・・「財政運営4」
回答者2	住みやすさ「 住みにくい 」	重要度	「医療体制5」	「健康づくり4」	・・・「財政運営4」
・	・	・	・	・	・
回答者422	住みやすさ「 住みにくい 」	重要度	「医療体制3」	「健康づくり4」	・・・「財政運営5」
		平均重要度	「医療体制4」	「健康づくり4」	・・・「財政運営4」

第4次柏原市総合計画では、その前段において、柏原市の将来像「市民が生きいきとしにぎわいにあふれているまち 柏原」の実現に向けて「住みたくなるまち、住み続けたい、魅力あるまちづくり」となる施策を展開することとしています。

そのため、“住みたくなるまち”、“住み続けたいまち”には、何が重要とされているのかを把握する必要があります。

そこで、市民意識調査において、柏原市が住みやすいと回答した人と、住みにくいと回答した人との間で、重要と考える取組に違いがあるのかを検証します。

上記の「使用データ」のように、「住みやすい」、「住みにくい」の区分ごとに各取組の重要度の得点を合計し、平均した値^{※1}を用いて分析を行いました。

※1 重要5点、やや重要4点、わからない3点、あまり重要でない2点、重要でない1点として各取組の得点を算出し、全回答者数で除した値

検証の結果、表－１「住みやすいと感じている人の重要度と住みにくいと感じている人の重要度の相関関係」に示すとおり、住みやすいと感じている人が重要と考える取組と、住みにくいと感じている人が重要と考える取組との相関係数は0.89となり、強い相関関係があることが確認できました。

これにより、住みやすさの向上に重視する取組は、住みやすいと感じている人、住みにくいと感じている人の2つのデータを合わせて、その取組が「重要」、「やや重要」と回答された割合（重要度比率^{※2}）を算定し、特に重要と考えられる取組を抽出しました。

※2 5段階評価における上位1位と2位の合計割合、「2top比率」という。

算定の結果、表－２「住みやすさへの重要な取組」に示すとおり、全取組の中で「医療体制」、「上水道」、「消防・救急体制」、「生活道路」、「防犯体制」、「下水道」、「高齢者福祉」の重要度比率が0.90ポイント以上となり、住みやすさを考えるうえで、特に重要視されている取組となります。

分析のポイント

ここでの分析データは、平均の重要度を用いたものです。市民意識調査の集計結果を平均値で表しているため、統一した考え方で平均値を用いました。

ただし、この平均の重要度は、高評価と低評価のバランス（例えば、全回答が3の場合と回答が5と1が半数の場合の3との違い）によっては、本当の評価が見えにくくなります。

今回は、第4次柏原市総合計画を、この「住みやすさ」だけで評価するものではなく、4つの視点で評価を行うため、平均の重要度による分析レベルとしています。

さらに分析を進める場合、統計学では、各評価項目と総合評価でクロス集計をして、評価項目毎にカイ2乗検定による回答の分布状況の違いを確認する方法が取られます。

(表-1) 住みやすいと感じている人の重要度と住みにくいと感じている人の重要度の相関関係

検証は、「住みやすい」、「住みにくい」の区分ごとに各取組の重要度の得点を合計し、平均した値を用いて行いました。住みやすいと感じている人が重要と考えている取組と、住みにくいと感じている人が重要と考えている取組との相関係数は0.89となり、強い相関関係があることを確認できました。

番号	施策	①住みやすい区分の重要度（平均値）				②住みにくい区分の重要度（回答比率）				③	④	⑤	⑥	⑦
		住みやすい	どちらかと 言えば住み やすい	計	平均値 x	住みにくい	どちらかと 言えば住み にくい	計	平均値 y	x-Hx	y-Hy	偏差平方和 (x-Hx) ²	偏差平方和 (y-Hy) ²	積和 ③×⑤
1	医療体制	107	231	338	4.62	35	7	42	4.50	0.43	0.58	0.18	0.34	0.25
2	健康づくり	493	1,067	1,560	4.42	161	28	189	4.23	0.23	0.31	0.05	0.10	0.07
3	子育て支援	104	224	328	4.38	35	8	43	4.19	0.19	0.27	0.04	0.08	0.05
4	高齢者福祉	112	237	349	4.57	38	8	46	4.11	0.38	0.19	0.14	0.04	0.07
5	障害者福祉	111	233	344	4.36	38	8	46	4.13	0.17	0.21	0.03	0.05	0.04
6	地域福祉	109	234	343	4.36	39	8	47	3.94	0.17	0.02	0.03	0.00	0.00
7	防犯体制	111	235	346	4.56	38	7	45	4.13	0.37	0.21	0.14	0.05	0.08
8	消費者保護	110	234	344	3.97	39	8	47	3.85	-0.22	-0.07	0.05	0.00	0.01
9	消防、救急体制	111	236	347	4.66	39	7	46	4.33	0.47	0.41	0.22	0.17	0.19
10	地域防災	111	234	345	4.51	39	7	46	3.98	0.32	0.06	0.10	0.00	0.02
11	自然保全	113	235	348	4.18	39	8	47	4.11	-0.01	0.19	0.00	0.04	0.00
12	資源の循環利用	112	237	349	4.32	39	8	47	3.96	0.13	0.04	0.02	0.00	0.01
13	地球温暖化防止	112	235	347	3.97	37	8	45	3.69	-0.22	-0.23	0.05	0.05	0.05
14	環境保全活動	111	234	345	3.99	38	8	46	3.70	-0.20	-0.22	0.04	0.05	0.04
15	商業	112	236	348	3.93	39	8	47	3.64	-0.26	-0.28	0.07	0.08	0.07
16	工業	110	236	346	3.83	39	8	47	3.74	-0.36	-0.18	0.13	0.03	0.06
17	農業	111	238	349	3.91	39	8	47	3.45	-0.28	-0.47	0.08	0.22	0.13
18	就労支援	109	238	347	4.16	39								

(表-2) 住みやすさへの重要取組

“住みやすいとした人”、“住みにくいととした人”における重要な取組には強い相関関係が認められたことから、住みやすさへの設問のうち未記入を除く全回答の中から「重要」、「やや重要」とされた回答の割合「重要度比率」を算定し、各取組を比較しました。「医療体制」、「上水道」、「消防・救急体制」、「生活道路」、「防犯体制」、「下水道」、「高齢者福祉」のポイントが0.90以上となり、特に重要視されている取組ということがわかりました。

■各取組項目の重視割合

番号	取組項目	住みやすさ別の回答数と（重要+やや重要）回答数					重要度比率
		住みやすい	どちらかと言えは住みやすい	どちらかと言えは住みにくい	住みにくい	計	
1	医療体制	107	231	35	7	380	0.94
	重要回答数	103	217	34	5	359	
2	健康づくり	105	228	35	8	376	0.89
	重要回答数	96	204	30	6	336	
3	子育て支援	104	224	35	8	371	0.85
	重要回答数	95	186	27	7	315	
4	高齢者福祉	112	237	38	8	395	0.90
	重要回答数	102	217	29	6	354	
5	障害者福祉	111	233	38	8	390	0.85
	重要回答数	98	201	28	6	333	
6	地域福祉	109	234	39	8	390	0.85
	重要回答数	98	200	27	6	331	
7	防犯体制	111	235	39	7	392	0.92
	重要回答数	103	220	30	6	359	
8	消費者保護	110	234	39	8	391	0.75
	重要回答数	85	177	26	6	294	
9	消防・救急体制	111	236	39	7	393	0.93
	重要回答数	101	225	34	5	365	
10	地域防災	111	234	39	7	391	0.87
	重要回答数	99	207	28	5	339	
11	自然保全	113	235	39	8	395	0.86
	重要回答数	102	197	33	7	339	
12	資源の循環利用	112	237	39	8	396	0.88
	重要回答数	101	212	30	6	349	
13	地球温暖化防止	112	235	37	8	392	0.73
	重要回答数	84	174	23	5	286	
14	環境保全活動	111	234	38	8	391	0.75
	重要回答数	89	173	25	5	292	
15	商業	112	236	39	8	395	0.74
	重要回答数	91	172	23	6	292	
16	工業	110	236	39	8	393	0.67
	重要回答数	73	159	26	6	264	
17	農業	111	238	39	8	396	0.70
	重要回答数	87	165	22	5	279	
18							

視点② 充足感

使用データ

平成26年度市民意識調査の回答で、取組の重要度を4以上とした人の中で、その取組の満足度が4以上と回答された人の割合を算定し、充足感とします。

回答者1	医療体制 (重要4・満足3)	健康づくり (重要2・満足4)	...	財政運営 (重要4・満足2)
回答者2	医療体制 (重要5・満足4)	健康づくり (重要4・満足5)	...	財政運営 (重要3・満足5)
回答者3	医療体制 (重要3・満足5)	健康づくり (重要4・満足3)	...	財政運営 (重要4・満足5)
...				
回答者100	医療体制 (重要2・満足1)	健康づくり (重要3・満足3)	...	財政運営 (重要5・満足1)
...				
回答者422	医療体制 (重要5・満足2)	健康づくり (重要5・満足2)	...	財政運営 (重要2・満足5)
回答数	392人	388人		402人
重要度4以上の人数	369人	345人		316人
うち満足度4以上の人数		182人	233人	103人
重要割合(重要4以上/回答) 94% 89% 79%				
充足感(満足4以上/重要4以上) 49% 68% 33%				

表－1、表－2において、“住みやすさ”に関して重要視されている取組を、一定把握することができました。

しかし、第4次柏原市総合計画の“これから”のことを考えるにあたっては、“住みやすさ”だけでなく、この総合計画のそれぞれの取組が、現状で市民の期待にどれだけ応えられているのかを検証しておく必要があります。

そこで、視点を全体の取組状況に移し、その充足感を測ることにします。

ただし、取組によっては、充足感を図るための基準や目標を数値化できるものと、数値化が難しいものがあるため、使用データに例示したとおり、その取組を重視している人（重要度4以上の評価をした人）の中で、どれくらいの割合の人が満足している（満足度4以上の評価）のかを、その取組の「充足感」として算定※3するものとします。

※3 住みやすさの設問では未記入であっても、各取組の満足度と重要度を記入されている回答があるため、充足感は、全体の回答数を分母として算定する。

算定の結果、表－3「これまでの取組の充足感」に示すとおり、重要割合の平均が80%、充足感の平均が48%です。

重要度の高い取組項目のうち、概ね充足している取組を平均以上として設定（重要割合80%、充足感50%）すると、図－1「重要割合と充足感」のとおり、「健康づ

くり」、「子育て支援」、「消防、救急体制」、「自然保全」、「資源の循環利用」、「教育環境」、「青少年の健全育成」、「市民サービス」が、一定、市民の期待に応えられている取組となりました。

一方、「医療体制」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」、「地域福祉」、「防犯体制」、「地域防災」、「計画的な土地利用」、「交通網」、「交通安全対策」、「教育指導」といった取組は、市民の期待から乖離している取組と考えられます。

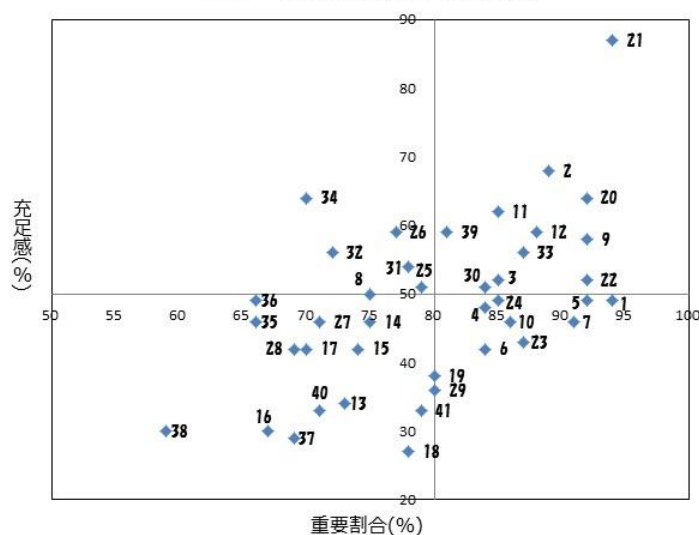
(表－３) 充足感

各取組の充足感は、その取組を重視している人の中で、どれくらい人が満足している人の割合としました。なお、個々の取組の充足感は、全体の回答数を分母としています。(住みやすさ別の回答が未記入であっても各取組の満足度と重要度が回答されている場合があるため)

■各取組項目の重視割合

番号	取組項目	① 全体の回答数	② ①のうち、重要、やや重要 の回答数	③ ②のうち、満足、やや満足 の回答数	④ 重要割合(%) ②/①	⑤ 充足感(%) ③/②
1	医療体制	392	369	182	94	49
2	健康づくり	388	345	233	89	68
3	子育て支援	382	323	167	85	52
4	高齢者福祉	407	342	184	84	48
5	障害者福祉	403	369	182	92	49
6	地域福祉	403	339	141	84	42
7	防犯体制	404	368	188	91	46
8	消費者保護	404	303	151	75	50
9	消防、救急体制	406	373	217	92	58
10	地域防災	403	348	159	86	46
11	自然保全	408	348	215	85	62
12	資源の循環利用	410	359	212	88	59
13	地球温暖化防止	406	296	102	73	34
14	環境保全活動	404	302	140	75	46
15	商業	408	302	127	74	42
16	工業	406	271	80	67	30
17	農業	410	289	120	70	42
18	就労支援	408	319	86	78	27
19	計画的な土地利用	405	324	123	80	38
20	下水道	410	376	241	92	64
21	上水道	412	388	338	94	87
22	生活道路	412	380	186	92	52
23	交通網	407	354	153	87	43
24	交通安全対策	410	350	170	85	49
25	公園、緑地	410	323	165	79	51
26	都市景観	402	308	183	77	59
27	人権教育	408	289	134	71	46
28	男女共同参画	408	282	119	69	42
29	教育指導	408	327	118	80	36
30	教育環境	406	340	174	84	51
31	生涯学習	408	317	170	78	54
32	スポーツ振興	409	293	165	72	56
33	青少年の健全育成	410	357	201	87	56
34	文化財の保護	411	288	184	70	64
35	コミュニティ活動	403	267	124	66	46
36	ボランティア活動	401	263	130	66	49
37	市政参画	404	277	80	68	29
38	国際化	402	236	70	59	30
39	市民サービス	403	327	183	81	59
40	行財政改革	402	286	93	71	33
41	財政運営	402	316	103	79	33
		(平均)			80	48

(図－１)重要割合と充足感



視点③ 重要度と満足度

使用データ

平成26年度市民意識調査の回答で、重要(重要度5)を5点、やや重要(重要度4)を4点、わからない(重要度3)を3点、あまり重要でない(重要度2)を2点、重要でない(重要度1)を1点という点数に置き換え、平均した値を「重要度」とし、同様に、満足度の平均した値を「満足度」として、これら2変数による分布状況を確認します。

回答者1	医療体制	(重要4・満足3)	健康づくり	(重要2・満足4)	・・・	財政運営	(重要4・満足2)
回答者2	医療体制	(重要5・満足4)	健康づくり	(重要4・満足5)	・・・	財政運営	(重要3・満足5)
回答者3	医療体制	(重要3・満足5)	健康づくり	(重要4・満足3)	・・・	財政運営	(重要4・満足5)
・							
回答者100	医療体制	(重要2・満足1)	健康づくり	(重要3・満足3)	・・・	財政運営	(重要5・満足1)
・							
回答者422	医療体制	(重要5・満足2)	健康づくり	(重要5・満足2)	・・・	財政運営	(重要2・満足5)
回答数	401人	392人	399人	388人		409人	402人
重要得点	1186点		1399点			1153点	
満足得点		1800点		1703点			1732点
重要度/満足度	2.96	4.59	3.51	4.39		2.82	4.31

視点①では、“住みやすさ”へ重要視されている取組、視点②では、現状での充足感を把握してきました。

視点③では、全取組を「重要度」と「満足度」という2つの変数によって、分布状況を調べ、その位置によって、全取組の中で優先的に改善する取組を分析していきます。

優先的に改善する取組を分析する理由としては、現在の経済状況や多様化する市民ニーズの中では、全取組において評価を高める事業を展開することは至難であり、こういった状況の中で、評価を高めるには、市民の期待に大きく応えられていない取組を抽出し、重点的に取り組むことが、最も効果的と考えられるためです。

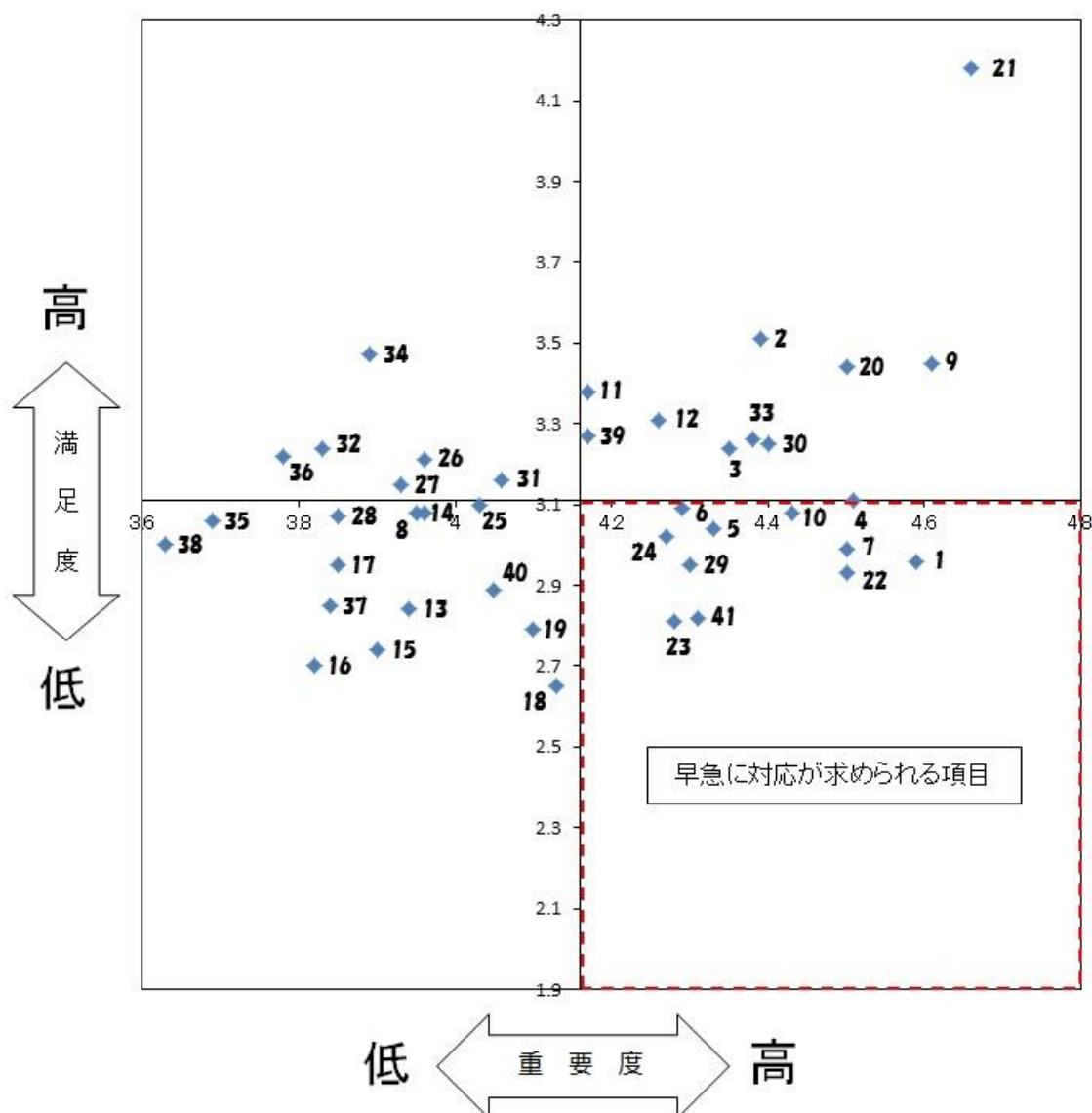
抽出は、満足度と重要度から顧客満足(CS/ Customer Satisfaction)の分析手法を用いて行います。

図－2「満足度と重要度」のとおり、満足度を縦軸に、重要度を横軸にして、全取組の満足度、重要度の平均を基準にとり、各取組を「重要度が高い・満足度が高い」「重要度が高い・満足度が低い」「重要度が低い・満足度が高い」「重要度が低い・満足度が低い」という4つのカテゴリーに分類しました。

これらのカテゴリーの中で「重要度が高い・満足度が低い」に分類された取組は、市民が不満を感じながら改善を最も期待しているものであり、これらの取組の満足度を向上させることが、市の全体の評価を最も向上させるものと考えられます。

この分析方法は、ポートフォリオマネジメントとも呼ばれていますが、「医療体制」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」、「地域福祉」、「防犯体制」、「地域防災」、「生活道路」、「交通網」、「交通安全対策」、「教育指導」、「財政運営」という11の取組が、早急に対応が求められる項目として分類されました。

(図-2)満足度と重要度



カテゴリー	取組項目
重要度高い・満足度高い	2健康づくり 3子育て支援 9消防、救急体制 11自然保全 12資源の循環利用 20下水道 21上水道 30教育環境 33青少年の健全育成 39市民サービス
重要度高い・満足度低い	1医療体制 4高齢者福祉 5障害者福祉 6地域福祉 7防犯体制 10地域防災 22生活道路 23交通網 24交通安全対策 29教育指導 41財政運営
重要度低い・満足度高い	26都市景観 27人権教育 31生涯教育 32スポーツ振興 34文化財の保護 36ボランティア活動
重要度低い・満足度低い	8消費者保護 13地球温暖化防止 14環境保全活動 15商業 16工業 17農業 18勤労支援 19計画的 な土地利用 25公園、緑地 28男女共同参画 35コミュニティ活動 37市政参画 38国際化 40行財政 改革

視点4 改善度指数

使用データ

視点③で算定した重要度と満足度を偏差値に置き換え、各取組の改善度指数を算定し、改善度の強弱を分析します。

偏差値とは、平均を50、標準偏差を10となるよう各データを変換し、集団内における各データの位置を表したものです。この位置が各取組の改善度の強弱となります。

改善度指数の算定方法については、次のとおり

- 1) 満足度と重要度を偏差値に置換え、偏差値CSグラフを作成

$$\text{偏差値} = 10 \times (\text{データ値} - \text{平均値}) \div \text{標準偏差} + 50$$

$$\text{標準偏差} = \sqrt{[(1\text{データ値} - \text{平均値})^2 + (2\text{データ値} - \text{平均値})^2 + \dots] \div \text{データ数}}$$

- 2) 1)で作成した偏差値CSグラフで、「原点から各取組項目までの距離」、「原点と各取組項目を結んだ線と基準線(原点と右下最下点を結んだ線)との間の角度」を測定

- 3) 2)で得られた角度を修正角度指数に変換

$$\text{修正角度指数} = (90\text{度} - \text{角度}) \div 90\text{度}$$

※修正角度指数とは、基準線からの角度を、90度=0、45度=0.5、0度=1に変換

- 4) 原点からの距離と修正角度指数を掛けて、改善度指数を算定

$$\text{改善度指数} = \text{距離} \times \text{修正角度指数}$$

視点③において41の取組を4つのカテゴリーに分類した結果、早急に対応が求められる項目として11の取組が選定されました。

しかし、早急に対応が求められる項目として把握できたものの、取組の改善と評価の向上を効率的、効果的に図っていくためには、どの取組から対応していくのかという観点が必要となります。

そこで、**使用データ**のとおり、「満足度」と「重要度」を偏差値に置き換え、各取組の改善度指数を算定し、改善度の強弱を分析します。

偏差値とは、平均を50、標準偏差を10となるよう各データを変換し、集団内における各データの位置を表したものです。この位置が各取組の改善度の強弱となります。

表ー4「重要度と満足度の偏差値」と 図ー3「重要度偏差値と満足度偏差値」は、**使用データ**の改善度指数の算定方法の1)により、作成したものです。

次に、改善度指数の算定方法の2)に示すとおり手順を進めれば、図ー3を用いて「原点から各取組項目までの距離」、「原点と各取組項目を結んだ線と基準線との間の

角度」の実寸を測定することになりますが、図－３の注釈にあるとおり各取組項目の位置を座標換算して距離と角度を求めることとします。

表－５「改善度指数」において、改善度指数の算定方法 2) から 4) までの算定結果を示しています。

改善度指数は一般的に、１０以上は改善、５以上が要改善、５未満が改善不要という評価となります。

結果、「医療体制」、「生活道路」の２項目が改善、「財政運営」、「防犯体制」、「交通網」、「就労支援」、「教育指導」、「高齢者福祉」、「地域防災」の７項目が要改善という評価となりました。

参考文献

実例でよくわかるアンケート調査と統計解析 ナツメ社 理学博士 菅民郎 著

Excel で学ぶ多変量解析入門 オーム社 菅民郎 著

(表-4) 満足度と重要度の偏差値

偏差値のグラフを作成するために、満足度と重要度を偏差値に置換えた表(太枠の欄)です。

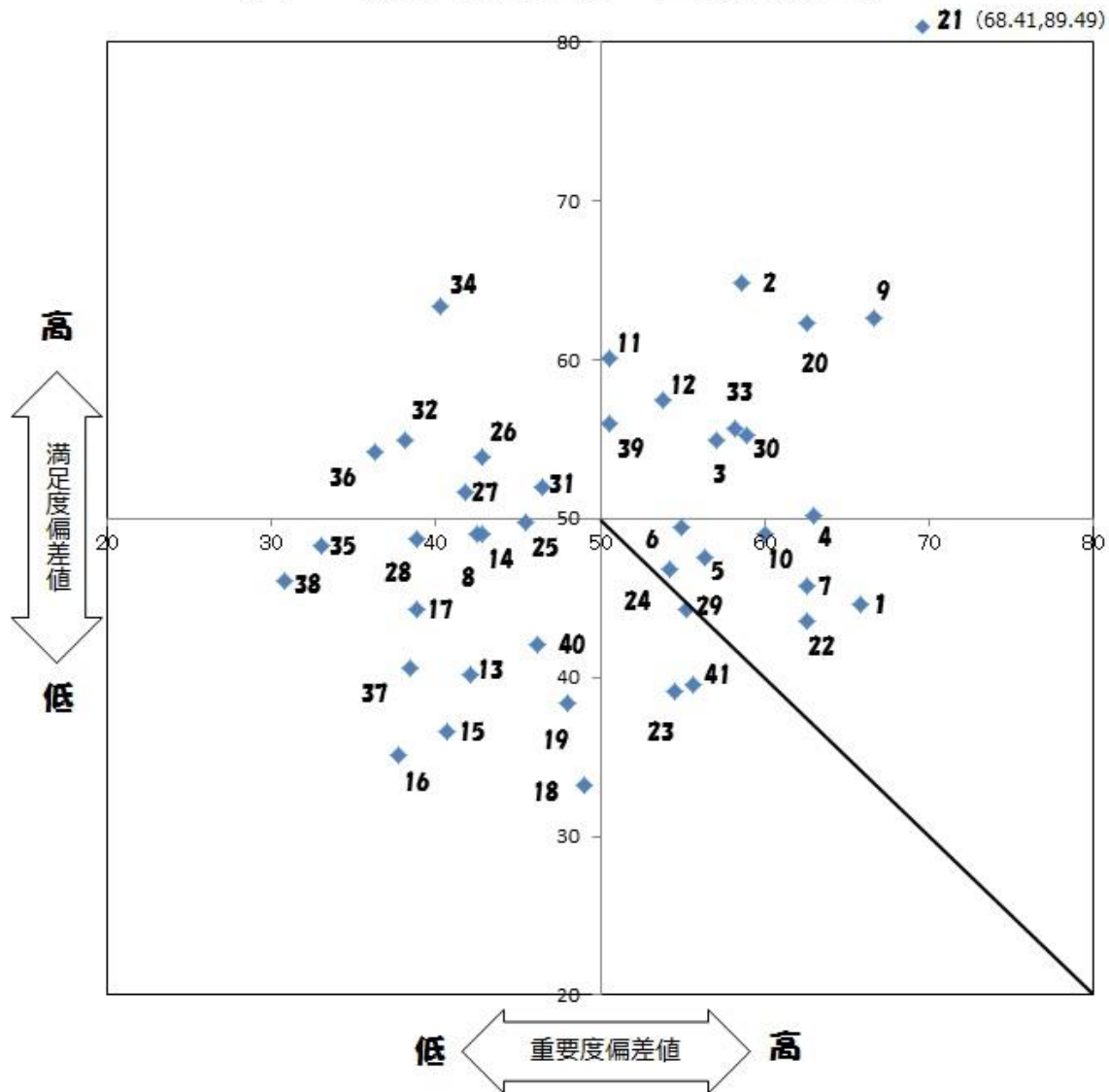
偏差値に置き換える式は、偏差値＝ $10 \times (\text{各満足[重要]度} - \text{満足[重要]度の平均}) / \text{標準偏差} + 50$ です。

※この式により偏差値の合計は50、標準偏差は10となります。

■項目番号順

番号	取組項目	満足度 x	重要度 y	満足度と重要度の標準偏差				満足度と重要度の偏差値		満足度と重要度の偏差値の標準偏差			
				$x - \bar{x}$	$y - \bar{y}$	$(x - \bar{x})^2$	$(y - \bar{y})^2$	$10 \times (x - \bar{x}) / \text{標準偏差} + 50$	$10 \times (y - \bar{y}) / \text{標準偏差} + 50$	$x' - \bar{x}'$	$y' - \bar{y}'$	$(x' - \bar{x}')^2$	$(y' - \bar{y}')^2$
1	医療体制	2.96	4.59	-0.15	0.43	0.02	0.19	44.64	65.86	-5.36	15.86	28.75	251.46
2	健康づくり	3.51	4.39	0.40	0.23	0.16	0.05	64.86	58.55	14.86	8.55	220.74	73.14
3	子育て支援	3.24	4.35	0.13	0.19	0.02	0.04	54.93	57.09	4.93	7.09	24.32	50.29
4	高齢者福祉	3.11	4.51	0.00	0.35	0.00	0.13	50.15	62.94	0.15	12.94	0.02	167.32
5	障害者福祉	3.04	4.33	-0.07	0.17	0.00	0.03	47.58	56.36	-2.42	6.36	5.86	40.46
6	地域福祉	3.09	4.29	-0.02	0.13	0.00	0.02	49.42	54.90	-0.58	4.90	0.34	24.01
7	防犯体制	2.99	4.50	-0.12	0.34	0.01	0.12	45.74	62.57	-4.26	12.57	18.14	158.01
8	消費者保護	3.08	3.95	-0.03	-0.21	0.00	0.04	49.05	42.48	-0.95	-7.52	0.90	56.53
9	消防、救急体制	3.45	4.61	0.34	0.45	0.12	0.21	62.65	66.59	12.65	16.59	160.06	275.16
10	地域防災	3.08	4.43	-0.03	0.27	0.00	0.08	49.05	60.01	-0.95	10.01	0.90	100.27
11	自然保全	3.38	4.17	0.27	0.01	0.08	0.00	60.08	50.52	10.08	0.52	101.57	0.27
12	資源の循環利用	3.31	4.26	0.20	0.10	0.04	0.01	57.50	53.80	7.50	3.80	56.32	14.47
13	地球温暖化防止	2.84	3.94	-0.27	-0.22	0.07	0.05	40.23	42.12	-9.77	-7.88	95.52	62.16
14	環境保全活動	3.08	3.96	-0.03	-0.20	0.00	0.04	49.05	42.85	-0.95	-7.15	0.90	51.17
15	商業	2.74	3.90	-0.37	-0.26	0.13	0.07	36.55	40.65	-13.45	-9.35	180.89	87.33
16	工業	2.70	3.82	-0.41	-0.34	0.16	0.11	35.08	37.73	-14.92	-12.27	222.61	150.49
17	農業	2.95	3.85	-0.16	-0.31	0.02	0.09	44.27	38.83	-5.73			

(図-3) 満足度偏差値と重要度偏差値



このグラフから改善度指数を求めます。偏差値で表した要素を右図のような原点からの距離と基準線との角度から算定します。

- 距離と角度は、グラフ上の実寸から求める方法もありますが、座標値から計算で求めることもできます。

$$\text{距離} = \sqrt{(x - Hx)^2 + (y - Hy)^2} = \sqrt{(x - 50)^2 + (y - 50)^2}$$

$$\text{角度} = \text{逆正接 } \text{atan2}()$$

$$\text{※エクセル関数} = \text{ABS(ATAN2}(x', y') * 180 / \text{PI}())$$

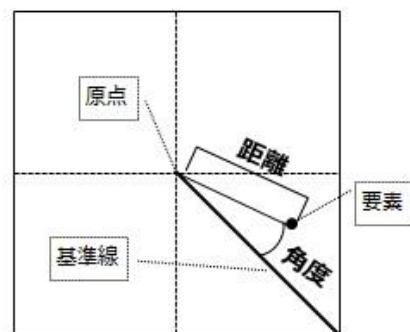
$$x' = (x - 50) * \sin(\pi/4) + (y - 50) * \cos(\pi/4)$$

$$y' = (x - 50) * \cos(\pi/4) + (y - 50) * \sin(\pi/4)$$

- この角度を修正角度指数に変換し、計算で求めた距離に乗じて算定したものが改善度指数となります。

$$\text{修正角度指数} = (90\text{度} - \text{角度}) / 90\text{度}$$

$$\text{改善度指数} = \text{距離} \times \text{修正角度指数}$$



(表-5) 改善度指数

偏差値C Sグラフにゆる各取組項目の位置から原点との距離、基準線との角度を座標計算に算定し、距離×修正角度指数により改善度指数を算定します。一般的には、改善度指数10以上は改善、5以上が要改善、5未満が改善不要という評価になります。

■項目番号順

番号	取組項目	満足度 偏差値 x	重要度 偏差値 y	距離 $\sqrt{(x-50)^2 + (y-50)^2}$	x' $(x-50) \times \sin(\alpha/4) + (y-50) \times \cos(\alpha/4)$	y' $(x-50) \times \cos(\alpha/4) + (y-50) \times \sin(\alpha/4)$	角度 $\theta = \text{ABS}(\text{ATAN2}(y', x')) \times (80/\pi)$	修正角度指数 $(90-\theta)/90$	改善度指数 距離×修正角度指数	改善度指数 順位
1	医療体制	44.64	65.86	16.74	15.00	7.42	26.32	0.708	11.844	1
2	健康づくり	64.86	58.55	17.14	-4.46	16.55	105.07	-0.167	-2.871	28
3	子育て支援	54.93	57.09	8.64	1.53	8.50	79.82	0.113	0.977	20
4	高齢者福祉	50.15	62.94	12.94	9.04	9.25	45.68	0.492	6.371	8
5	障害者福祉	47.58	56.36	6.81	6.21	2.79	24.16	0.732	4.979	10
6	地域福祉	49.42	54.90	4.93	3.88	3.05	38.22	0.575	2.839	13
7	防犯体制	45.74	62.57	13.27	11.90	5.88	26.28	0.708	9.396	4
8	消費者保護	49.05	42.48	7.58	-4.64	-5.99	127.80	-0.420	-3.183	30
9	消防、救急体制	62.65	66.59	20.86	2.78	20.68	82.33	0.085	1.777	16
10	地域防災	49.05	60.01	10.06	7.75	6.41	39.58	0.560	5.635	9
11	自然保全	60.08	50.52	10.09	-6.76	7.49	132.07	-0.467	-4.717	32
12	資源の循環利用	57.50	53.80	8.41	-2.62	8.00	108.12	-0.201	-1.694	24
13	地球温暖化防止	40.23	42.12	12.56	1.34	-12.49	83.89	0.068	0.852	21
14	環境保全活動	49.05	42.85	7.22	-4.39	-5.73	127.43	-0.416	-3.001	29
15	商業	36.55	40.65	16.38	2.90	-16.12	79.79	0.113	1.857	15
16	工業	35.08	37.73	19.32	1.88	-19.22	84.43	0.062	1.196	18
17	農業	44.27	38.83	12.56	-3.85	-11.95	107.85	-0.198	-2.490	26
18	就労支援	33.24	49.06	16.78	11.18	-12.52	48.23	0.464	7.791	6
19	計画的な土地利用	38.39	47.96	11.79	6.77	-9.65	54.96	0.389	4.589	12
20	下水道	62.28	62.57	17.58	0.20	17.57	89.34	0.007	0.129	22
21	上水道	89.49	68.41	43.57	-14.90	40.94	110.00	-0.222	-9.682	39
22	生活道路	43.54	62.57	14.14	13.46	4.32	17.78	0.802	11.342	2
23	交通網	39.12	54.53	11.78	10.90	-4.48	22.37	0.751	8.855	5
24	交通安全対策	46.84								

第2章 “これから” ～後半期(平成28～32年度)の取組～

第1章において、市民意識調査結果のデータを用い、視点①住みやすさ、視点②充足感、視点③重要度と満足度、視点④改善度指数と4つの視点から、第4次柏原市総合計画の41の取組を検証しました。

検証の結果、表－6「第4次柏原市総合計画 後半期（平成28～32年度）の主な取組」のとおり、住みやすさにとって重要視されている取組、現状で市民の期待から乖離している取組、市民が不満と感じながら改善を最も期待している取組、改善順位の高い取組を抽出することができました。

そこで、第4次柏原市総合計画の後半期においては、視点①から視点④までで抽出された取組と、「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で実施する人口減少、少子高齢化への取組を、特に重点的に取り組む取組候補と位置付け、19ページから24ページまでに取りまとめたとおり、具体的な事務事業を選定しました。

これら事務事業を、第4次柏原市総合計画の後半期（平成28～32年度）の主な取組の施策として展開し、柏原市の将来像「市民が生きいきとしにぎわいにあふれているまち 柏原」の実現に向けて「住みたくなるまち、住み続けたい、魅力あるまちづくり」を進めてまいりたいと考えます。

(表-6) 第4次柏原市総合計画 後半期(平成28～32年度)の主な取組

市民意識調査の結果から、視点① 住みやすさ、視点② 充足感、視点③ 満足度と重要度、視点④ 改善度指数 による抽出した取組と、まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を一覧にし、後半期の主な取組の候補を抽出しました。

■項目番号順

番号	取組項目	満足度	重要度	視点①	視点②		視点③	視点④	まちひとしごと 創生総合戦略	主な取組の 候補 抽出項目数
				住みやすさ 重要度比率	重要割合	充足感	満足度分類 重要・満足	改善度指数 順位		
1	医療体制	2.96	4.59	0.94	84	49	高・低	1	妊娠・出産支援の充実	5
2	健康づくり	3.51	4.39	0.89	89	68	高・高	28	健康づくりの推進	1
3	子育て支援	3.24	4.35	0.85	85	52	高・高	20	子育て支援の充実、幼児教育・保育施設等の充実	1
4	高齢者福祉	3.11	4.51	0.90	84	48	高・低	8	コンパクトなまちづくり、健康づくりの推進	5
5	障害者福祉	3.04	4.33	0.85	92	49	高・低	10	コンパクトなまちづくり	3
6	地域福祉	3.09	4.29	0.85	84	42	高・低	13		2
7	防犯体制	2.99	4.50	0.92	91	46	高・低	4	犯罪のないまちづくり	5
8	消費者保護	3.08	3.95	0.75	75	50	低・低	30		
9	消防、救急体制	3.45	4.61	0.93	92	58	高・高	16		
10	地域防災	3.08	4.43	0.87	86	46	高・低	9	災害に強いまちづくり	4
11	自然保全	3.38	4.17	0.86	85	62	高・高	32		
12	資源の循環利用	3.31	4.26	0.88	88	59	高・高	24		
13	地球温暖化防止	2.84	3.94	0.73	73	34	低・低	21		
14	環境保全活動	3.08	3.96	0.75	75	46	低・低	29		
15	商業	2.74	3.90	0.74	74	42	低・低	15	地方拠点化と地域活性化、定住・移住の促進	1
16	工業	2.70	3.82	0.67	67	30	低・低	18	地方拠点化と地域活性化、人材の確保	1
17	農業	2.95	3.85	0.70	70	42	低・低	26	農業振興	1
18	就労支援	2.65	4.13	0.79	78	27	低・低	6	人材の確保	2
19	計画的な土地利用	2.79	4.10	0.80	80	38	低・低	12	定住・移住の促進、コンパクトなまちづくり	2
20	下水道	3.44	4.50	0.92	92	64	高・高	22	整備の行き届いたまちづくり	1
21	上水道	4.18	4.66	0.94	94	87	高・高	39		
22	生活道路	2.93	4.50	0.93	92	52	高・低	2	整備の行き届いたまちづくり	4
23	交通網	2.81	4.28	0.87	87	43	高・低	5	コンパクトなまちづくり、整備の行き届いたまちづくり	4
24	交通安全対策	3.02	4.27	0.86	85	49	高・低	11	犯罪のないまちづくり	3
25	公園、緑地	3.10	4.03	0.79	79	51	低・低	25		
26	都市景観	3.21								

“これから”

～後半期(平成28～32年度)の取組～

政策目標 1

地域のつながりの中で 誰もが健康で安心して暮らしている

施策目標1-1《医療、健康》 市民が必要なときに必要な医療が受けられ、健康に暮らしている

重点項目 1-1-1 医療体制	指針	主要施策	前半期	後半期
身近な地域で必要な医療が受けられる体制が整っている	市民自らが病気の程度や緊急性を判断できるよう救急医療に関する意識啓発を行います	医療体制の充実	循環器科の導入	地域包括ケア病棟の導入
		市立柏原病院の健全運営	市立柏原病院新改革プラン(市立柏原病院八策)の実行	産婦人科医の増員、不妊治療アドバイス
新たな「公立病院改革プラン」の策定と推進				
重点項目 1-1-2 健康づくり	指針	主要施策	前半期	後半期
市民の日常的な健康管理、健康づくりと健全な国民健康保険事業等の運営が行われている	市民が健康の大切さを認識し日常的に自ら健康管理に取り組みよう意識啓発を行います	健康づくり運動の増進	健康ウォーキングの実施、ウォーキング講座の開催	生活習慣病の予防の他、健康に関する正しい知識の普及を図る健康教育事業による健康づくりプログラムの実施

施策目標1-2《福祉》 子どもから高齢者、障害者等、誰もが地域の支え合いの中で生きいきと暮らしている

重点項目 1-2-1 子育て支援	指針	主要施策	前半期	後半期
地域の中で保護者が安心して子育てを行い、子どもがすくすくと育っている	働く親が仕事と育児を両立できるよう事業主の子育て支援の取り組みを啓発します	子育て支援の充実	ハローワークと連携(ひとり親家庭等の親の自立支援)、つどいの広場1箇所増	高卒認定試験給付金の給付、つどいの広場の土曜日開放
		保育サービスの充実	公立保育所民営化のガイドライン策定	保育所2園民営化による低年齢児保育の拡充
重点項目 1-2-2 高齢者福祉	指針	主要施策	前半期	後半期
高齢者が住み慣れた地域で介護・福祉サービスを利用し、互いに支え合い、生きがいを持って安心して暮らしている	市民が高齢者の孤独死等を出さない地域の支え合いの大切さについて理解を深められるよう意識啓発を行います	生きがいと社会参加の推進	地区福祉委員との協働や老人クラブ活動における介護予防教室の実施	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業(シニア大学等)の取組
		高齢者が安心して暮らすの実現	ひとり暮らし高齢者の見守り訪問の実施	民間事業者等との協定による高齢者見守りネットワークの実施
買い物支援事業の検討				
重点項目 1-2-3 障害者福祉	指針	主要施策	前半期	後半期
障害の程度にかかわらず全ての人が普通に暮らしている	市民が障害者を地域の一員として受け入れ障害者を支えていけるよう意識啓発を行います	安心して暮らすことができる地域の実現	在宅の重度障害者の安否確認や緊急時の連絡方法の確保等	障害者差別解消法に基づく取組の推進
		自己選択、自己決定に基づく自立支援の促進	福祉サービスの認知度向上による利用者増	買い物支援事業の検討
サービス等利用計画の実施率100%				

施策目標1-3《防犯》 地域の治安が守られ、市民が安心して暮らしている

重点項目 1-3-1 防犯体制	指針	主要施策	前半期	後半期
市民の防犯意識が高く地域一体になった防犯活動が行われている	市民が自分の身を犯罪から守るよう意識啓発を行います	防犯対策の推進	既存防犯灯LED化、新設LED防犯灯、防犯カメラ設置等の町会への補助	町会への新設LED防犯灯、防犯カメラ設置等の補助の他、警察と連携し、必要に応じて防犯対策を実施

施策目標1-4《防災》

市民と行政の協働により、災害から市民の安全が守られている

重点項目 1-4-2 地域防災	指針	主要施策	前半期	後半期
災害に強いまちづくりと地域での自主防災体制がすすめられている	市民が自分の身は自分で守り地域のことは地域で守るとの意識を持てるよう意識啓発を行います	災害に強いまちづくりの推進	地域住民とまち歩きしてハザードマップを製作	地域防災計画に基づく初動・活動マニュアルの作成 耐震改修促進計画の見直し 空家等対策計画の策定と空家等への指導

政策目標 2

産業と豊かな自然が調和し、
環境にやさしい事業活動や生活行動を実践している

施策目標2-4《産業》

産業が育ち、地域に活力と賑わいがあふれている

重点項目 2-4-1 商業	指針	主要施策	前半期	後半期
魅力的な商業地が展開され、多くの人たちが賑わっている	市民が商店街等の重要性を理解できるよう情報提供を行います	商業の基盤	事業者情報サイト構築、産業競争力強化法による「柏原市創業支援事業計画」策定	商工会、日本政策金融公庫等と連携し、相談事業、セミナー事業を展開 空き店舗活用制度の検討
重点項目 2-4-2 工業	指針	主要施策	前半期	後半期
個性のある工業が育ち、地域産業を牽引している	市民が市内工業の役割や効果について理解を深めてもらえるよう情報提供を行います	企業経営の支援	事業者情報サイト構築、産業競争力強化法による「柏原市創業支援事業計画」策定	商工会、日本政策金融公庫等と連携し、相談事業、セミナー事業を展開
重点項目 2-4-3 農業	指針	主要施策	前半期	後半期
ぶどう等の特色のある農業が盛んで、担い手が育っている	市民が地域農業への理解と関心を深められるよう情報発信を行います	農業の担い手育成 安全で安心な農産物の生産 地域農業の活性化	担い手塾においてワイン用ぶどう栽培の講習や就農に向けた既農者の下での実地研修の開催 市外イベントでの特産品販売、フェイスブックでの情報発信	就農希望者の雇用、農地の集積を目的に農業法人を育成 高齢農業従事者への省力化設備導入支援による生産力向上

施策目標2-5《就労環境》

身近な地域で働く場が確保され、働きやすい環境が整っている

重点項目 2-5-1 就労支援	指針	主要施策	前半期	後半期
身近な地域で働けるよう、地域での雇用支援が進められている	企業における就労条件が改善されるよう意識啓発を行います	就労支援の推進	地域就労支援センターを無料職業紹介所化	大学等と連携した地元企業合同会社説明会、地元企業見学会の開催

政策目標 3

生活の利便性が高く、
質の高い快適に暮らせるまちとなっている

施策目標3-1《都市基盤》

必要な都市機能がまとまった利便性の高い快適に暮らせるまちとなっている

重点項目 3-1-1 計画的な土地利用	指針	主要施策	前半期	後半期
計画的な土地利用に基づき、身近なまちづくりが進められている	市民参加による計画的なまちづくりの必要性について理解を深めてもらうよう情報提供し、多様な市民参加を呼びかけます	都市計画の推進	都市計画マスタープランの策定とまちづくりへの実践	三世代同居・隣居・近居定住移住の支援 立地適正化計画の策定

施策目標3-2《生活基盤》

快適な衛生環境が確保されている

重点項目3-2-1 下水道	指針	主要施策	前半期	後半期
生活排水が適正に処理され、河川の水質が改善されている	市民が生活排水がもたらす影響等について理解を深め、各家庭における生活排水対策に取り組むよう、情報提供と啓発を行います	生活排水の適正処理	柏原市公共下水道第6次5箇年計画の達成と第7次5箇年計画の策定	第7次5箇年計画の推進

施策目標3-3《交通基盤》

利便性、安全性の高い交通基盤が整備され、誰もが快適に移動している

重点項目3-3-1 生活道路	指針	主要施策	前半期	後半期
誰もが安心して歩ける身近な生活道路が整備されている	市民が快適な歩行者空間確保のための市民の協力について理解できるよう情報提供し、その活動を支援します	市道の整備 道路の維持管理	地域内の幹線の道路の整備、市道の交通安全対策 舗装修繕計画、橋の長寿命化修繕計画、道路付属物等修繕計画、街路灯LED化計画の策定	利便性や安全性の向上を図る道路改良や整備を推進 舗装修繕計画、橋の長寿命化修繕計画、道路付属物等修繕計画、街路灯LED化計画の推進
重点項目3-3-2 交通網	指針	主要施策	前半期	後半期
市域内外を自由に移動できる交通網が整備されている	市民が公共交通利用の必要性について理解できるよう情報提供し、公共交通利用促進を啓発します	市内循環バスの利用促進	バス運転の民間委託(一路線)	循環バスの民間委託推進 都市計画道路が接続する市道(交差点部)の整備
重点項目3-3-3 交通安全対策	指針	主要施策	前半期	後半期
市民の交通安全意識が高まり、交通安全対策が進んでいる	市民が交通ルールを守り、交通事故が減少するよう市民の交通安全意識を啓発します	違法駐車、駐輪対策の推進	機械式2階建駐車場の平面駐車場化による利用促進	自転車駐車場、駐車場の適正規模、適正配置の検討

施策目標3-4《アメニティ環境》

潤いと安らぎを与える景観や身近な緑にあふれている

重点項目3-4-1 公園、緑地	指針	主要施策	前半期	後半期
市民との協働により緑あふれるまちづくりが進められている	市民が公園や緑地を愛着を持って維持管理ができるよう市民参加型(ワークショップ方式の市民意見導入)による公園整備を進めます	公園、緑地の整備	公園のデータベース化(維持管理状況、利用者状況、施設設備状況等)	公園施設の長寿命化に向けた取組の推進

政策目標
4

人権を尊重し、地域への誇りを持った
心豊かな個性と能力を発揮する人が育っている

施策目標4-1《人権》

一人一人の人権が守られ、誰もが生きいきと暮らしている

重点項目4-1-1 人権教育	指針	主要施策	前半期	後半期
人権尊重意識の高揚と教育が市民生活の中に浸透している	市民が人権や平和に関する理解を深められるよう情報提供や意識啓発を行います	人権尊重意識の普及	羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市と連携した相談窓口の構築、人権に関する相談事業による庁内相談窓口のネットワーク化	ヘイトスピーチ、性的マイノリティなど新たな人権問題のデータ収集、対応策の体系化
重点項目4-1-2 男女共同参画	指針	主要施策	前半期	後半期
男女の人権が尊重され、互いに支え合い、能力を十分に発揮できる社会が実現している	市民が性別による固定的な役割分担意識を解消するよう意識啓発を行います	男女共同参画社会の推進	第3期男女共同参画プランの策定、女性センターを男女共同参画センターに変更するとともに、休館日を変更して利用を促進	ワークライフバランス「男性の家事参画事業の実施」 エンパワーメント「女性の社会参画事業の実施」

施策目標4-2《学校教育》

一人一人の個性と能力を伸ばす学校教育が行われ、子どもの学力が向上している

重点項目4-2-1 教育指導	指針	主要施策	前半期	後半期
幼稚園、小中学校において連携した教育が行われ、基礎学力が向上している	市民が子どもの社会性育成について理解を深められるよう情報提供を行います	幼小中一貫教育の推進	全校での幼小中一貫教育開始、幼小中一貫教育コーディネーターの配置	幼小中一貫教育のこれまでの評価と推進を図るための専科授業を充実
		学力・体力の向上	民間教育(講師、教材)の活用による学力向上	総合学力調査の全学年、全児童生徒実施
		教育支援の充実	小中学校の英語・国際理解教育の推進と充実のため外国人英語指導助手を配置 小学校にスクールカウンセラー派遣(いじめ・不登校問題)	クラスルームイングリッシュ教材の共通化、英語キャンプの開催 スクールカウンセラーの派遣(相談依頼の早期対応、専門的知見による適切な解決策の示唆)
重点項目4-2-2 教育環境	指針	主要施策	前半期	後半期
子どもが快適な学習環境の中で充実した教育を受けている	市民が子どもの学校生活と教育環境について理解を深められるよう情報提供を行います	学校の耐震化	耐震化計画(8小学校・3中学校)	学校施設統合化の検討、普通教室への空調設備設置等、教育環境の充実に向けての取組
		一体型一貫校の推進	学校施設統合整備に係る民間活力導入等の検討	

施策目標4-3《生涯学習》

誰もが生涯にわたって学ぶ機会があり、生きがいを持って地域で暮らしている

重点項目4-3-1 生涯学習	指針	主要施策	前半期	後半期
年齢によらず、誰もが学びたいときに学べる多様な学習機会がある	市民が生涯を通じて学習ができるよう支援を行います	生涯学習の充実	自然体験学習施設の整備	指定管理者制度導入による自然体験学習施設の利便性向上
			文化センター講座において受講者アンケートを実施	市民ニーズに対応した講座の開催(新たに5講座)
			図書館のSNS開始、移動図書館の学校巡回	読書手帳システムの導入、寛ぎの環境整備
重点項目4-3-3 青少年の健全育成	指針	主要施策	前半期	後半期
地域のつながりの中で、子どもが健全に育っている	市民が社会環境の青少年育成に及ぼす影響について理解を深められるよう情報提供を行います	青少年講座の充実	既存教室の他、絵画教室、クリスマスリース(クラフト)教室を自然体験学習施設で実施	指定管理者による自主事業化で継続実施
重点項目4-3-4 文化財保護	指針	主要施策	前半期	後半期
文化財が大切に守られ、次世代へ継承されている	市民が地域における文化財の価値を理解し継承できるよう情報提供を行います	文化財の保存と活用	文化財の新たな指定7件(市指定文化財6件、国指定文化財1件)	指定・未指定を問わず幅広く文化財を把握し、総合的な保存と活用を図る歴史文化基本構想の検討

政策目標
5

健全な行財政運営が行われ、
市民全体のまちづくりが実現している

施策目標5-1《協働のまちづくり》市民が市政に関心を持ち、市民が主体となったまちづくりが実現している

重点項目5-1-1 コミュニティ活動	指針	主要施策	前半期	後半期
市民が身近な地域で自主的にコミュニティ活動に参加している	市民がコミュニティの役割やその重要性を理解できるよう意識啓発を行います	コミュニティ活動への支援	地域担当職員制度の導入	市の施策と連携する補助金事業の連携
		コミュニティ会館の整備と運営	集会所の修繕補助制度の創設	集会所修繕計画の進捗

重点項目5-1-2 ボランティア活動	指針	主要施策	前半期	後半期
多様な分野でボランティア活動が盛んでボランティア団体が育っている	市民が働きながらボランティア活動ができるよう事業主の意識啓発を行います。	ボランティア活動の育成支援	「まちガイド」「森ガイド」の育成	ボランティアのスキルアップを図る研修、講義の開催
重点項目5-1-3 市政参画	指針	主要施策	前半期	後半期
市民が積極的に市政に参加している	市民の意見が市政に反映されるよう市政に関して意見を述べる場や直接参画する機会の充実を図ります	市政参画への環境づくり 行政への市民参加の推進	市民意識調査の隔年実施 行政評価委員会の実施	市民意識調査の毎年実施、WEBアンケート実施 市政モニター導入（行政評価者拡充）

施策目標5-3《市政運営》 市民の視点に立った適正な市政運営が行われている

重点項目5-3-1 市民サービス	指針	主要施策	前半期	後半期
市民のニーズに対応した適正なサービスが提供されている	市民満足度の高いサービスが提供できるよう体制を整えます	窓口サービスの充実 広報広聴活動の推進	パスポート発給事務（一部） SNSによる情報発信開始	コンビニ交付の導入 広報誌特集号の発行、主要駅での配布

施策目標5-4《行財政運営》 市民の信頼の高い、効率的で効果的な行財政運営が行われている

重点項目5-4-1 行財政改革	指針	主要施策	前半期	後半期
改革・改善の意識の下、計画的かつ合理的な行財政システムの改革が進められている	市民が行財政改革の進捗状況と達成状況を把握できるよう説明責任を果たします	行財政改革の推進 総合計画の推進 庁舎本館の整備	柏原市行財政健全化戦略の策定及び推進 第4次総合計画策定 庁舎あり方検討会等の開催、庁舎研究報告書の公開と市民アンケート実施	戦略の重点項目を社会情勢に合わせ更新 第4次総合計画の中間年見直し PPP/PFI等の事業手法を検討
重点項目5-4-2 財政運営	指針	主要施策	前半期	後半期
歳入及び歳出の適正化の下、計画的かつ公立的な財政運営が進められている	市民が税金の役割について理解を深めるとともに税の使途を把握できるよう、わかりやすい説明を行います	行財政改革の推進	柏原市行財政健全化戦略に基づく具体的取組項目(H22～H26)の実施	柏原市行財政健全化戦略に基づく具体的取組項目(H27～H31)の実施